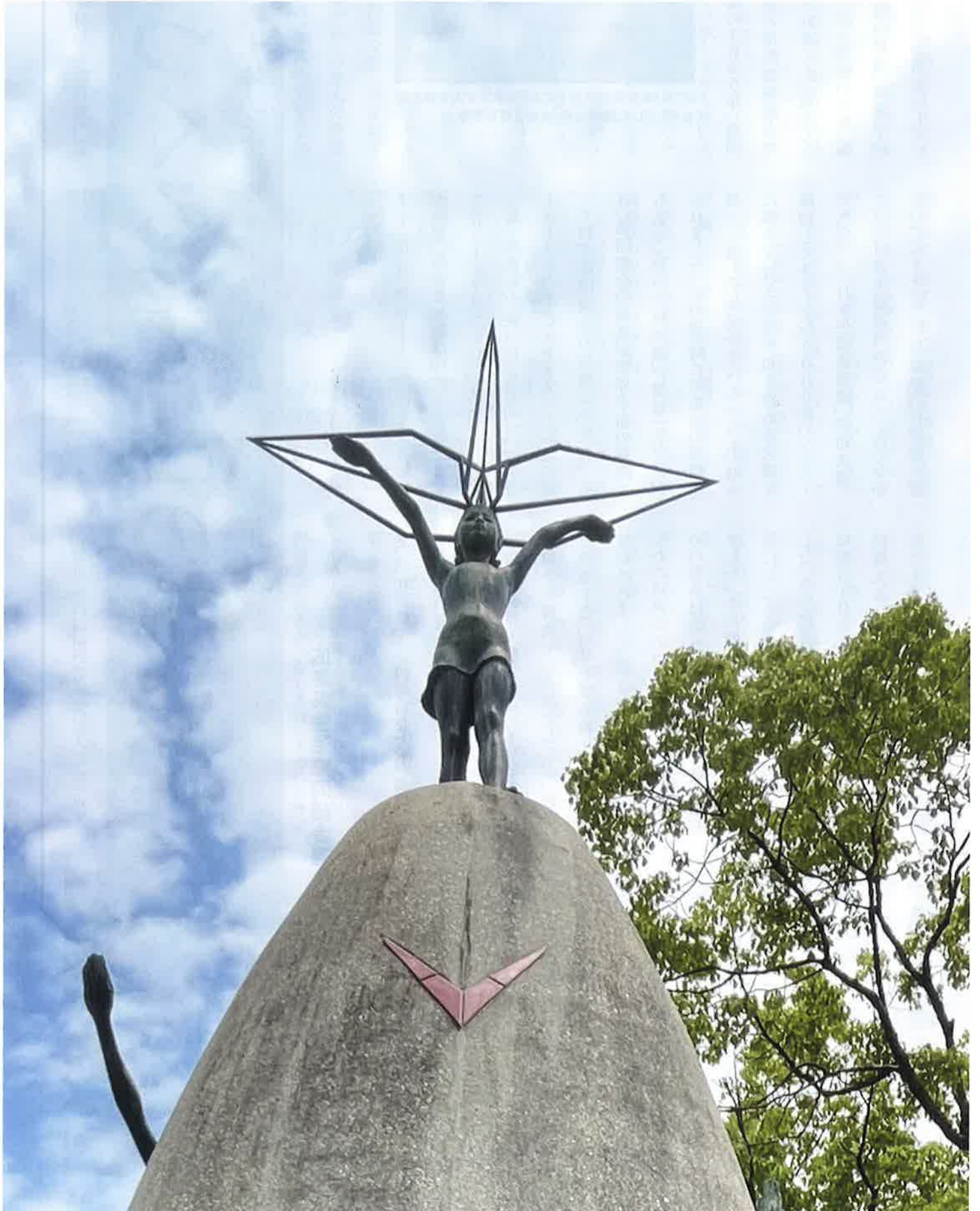


# C.COMi

2022.July

vol.  
84

平和とより良き生活のために  
広島県生活協同組合連合会



# 「つくる平和」の可能性

## 市民主体のエネルギーの結集が平和への第一歩



広島県生活協同組合連合会 会長理事 岡村 信秀

ます。現在、世界112カ国・318組織が加盟、組合員総数は10億人を超えます(2021年7月)。

定、核兵器禁止条約締結など)が満場一致で採択されました。

2000回の空襲を受け、犠牲者が45万人を超え、生協活動も壊滅状態となりました。



2010年度県連総会でICAジュネーブ大会参加報告をしている岡村会長(当時は専務理事)

今から127年前の1895年、協同

組合の国際組織である国際協同組合同盟(ICA)が設立されました(本部ジュネーブ)。世界の協同組合運動の推進、協同組合間の協力関係の促進、世界平和と安全保障への貢献などを目的としてい

第一次世界大戦の足音が近づいていた

1913年のICAグラスゴー大会では

「平和が協同組合の発展に不可欠であり、協同組合の発展が世界平和の保障でもある」旨の平和決議が満場一致で採択されました。その後、時に対象国の加盟組織から激しい反発を受けながらも、時々

に戦争反対と世界平和を求める決議を

採択してきました。2009年のジュネーブ大会では、日本生協連発議「平和決議」

(山下日本生協連当時会長)、ヒロシマからのアピール(岡村、核廃絶の目標期日設

第一次世界大戦終結後の1928年、国

際紛争を解決する手段としての「戦争」を放棄する「パリ不戦条約」が多国間で

締結されました。戦争を国際法上違法としたのは画期的なことでしたが自衛のための戦争は除外され、あいまいさを残しました。その結果として、1939年、6

年にわたる第二次世界大戦が勃発しま

した。第二次世界大戦の日本人の犠牲者は約310万人(軍人・軍属230万人、

民間人80万人)。絶望的抗戦期といわれた1944年11月以降、日本は各地で

終戦直後、先人たちは立ち上がり、

1945年11月に日本協同組合同盟を設立、1951年3月、後継組織として

日本生活協同組合連合会を創立しました。創立総会では賀川豊彦の平和思想やICAの平和決議を念頭に、独自の「平和宣言」を採択しました。以後、全国の生

協は「平和とより良き生活のために」を基本スローガンに今日まで活動を続けて

きました。平和を願う取り組みは、平和行進・ピースアクション・「核兵器廃絶」市民の集い(市民6団体)・被爆の証言・原爆

展、語り継ぎ・碑めぐり・署名・ピースナイター（生協ひろしま）・被爆ピアノコンサート（生協ひろしま）・・・“どうれつしやがやつてきた”大合唱、など多様な活動が県内各地で広がっています。

戦争と核兵器は平和な日々のくらしを土台から崩し、子どもの夢や未来を奪い去ります。平和だからこそ得られるかけがえのない日常。生協の平和活動の原点はまさにここにありまます。戦争や核兵器がなくなり、安心してくらせる「平和な社会」の実現に向け、一人ひとりの市民が主体的に関わり創っていく「つくる平和」です。

「つくる平和」の原点と牽引力は、家族への強い愛情とその周囲の人たちの幸せを願う人間としての根源的な優しさがありません。そして「つくる平和」の最大の障壁は無関心です。平和は、無関心でいると、真実を見る力が失われます。1981年、広島を訪れたローマ法王ヨハネ・パウロ二世が核兵器廃絶を訴えた「平和アピール」はまさに現在を生きる私たちに「つくる平和」の大切さを訴えています。その一部が現在碑文として平和記念資料館に設

## ローマ法王「平和アピール」

戦争は人間のしわざです。  
戦争は人間の生命を奪います。  
戦争は死そのものです。  
過去を振り返ることは、将来に対する責任を担うことです。  
ヒロシマを考えることは、核戦争を拒否することです。  
ヒロシマを考えることは、平和に対しての責任をとることです。

置されています。また、「つくる平和」を考えるときいつも頭をよぎるのは「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」。(ユネスコ憲章の前文の一節)と「ひとりで見える夢は、単なる夢であり多くの人々が一緒に見る夢は、新しい現実のはじまりである。」(1984年ICCAハンブルク大会総括の冒頭の句)です。

さて、国際社会は、被爆者や国際NGO、非核保有国などの長年にわたるねばり強い行動により、2017年7月に「核兵器禁止条約」が国連で採択され、2021年1月、国際法として発効されました。現在66カ国(7月19日現在)が批准しています。条約の前文に「核兵器の使用による被害者(ヒバクシャ)と核実験で影響を受けた人々の受け入れがたい苦痛と損害に留意」が明記されました。条約は核兵器の開発、保有、使用、威嚇などを禁止しており、人類と共存できない「絶対悪」の核兵器は社会規範として「悪の烙印」が押されました。まさに人道的立場に立った「人類全体の安全保障実現」への第一歩と言えます。

しかし、核軍縮は「核抑止力」を根拠に停滞しています。むしろロシアのウクライナ侵略を背景に、世界は安全保障の地図の塗り替えと軍備増強が進みはじめ、核兵器の使用リスクも高まっています。その意味で、私たちは今大きな岐路に立たされています。

禁止条約には核保有国は入っており、

核兵器を全面的に禁じる動きを世界に広めるためには、批准国を増やすことと締約国会議にオブザーバーで参加することがポイントです。唯一の戦争被爆国日本は特別な国として平和外交を粘り強く続けることが求められます。そして、その外交を後押しするためには、市民主体の「つくる平和」が全国各地で広がり世論を高めることが不可欠です。被爆地ヒロシマで活動する生協はその自覚と発信がこれまで以上に期待されます。



2010年NPT再検討会議に参加し行進に参加している岡村会長(当時は専務理事)

## 核兵器廃絶に向けて市民団体が結集!

2022「戦争も核兵器もない平和な世界を」市民の集い開催

5月25日、2つの広島県原爆被害者団体協議会、広島YMC A、広島県地域女性団体連絡協議会、広島県青年連合会、広島県生協連合会の6つの市民団体が、2022「戦争も核兵器もない平和な世界を」市民の集いを開催しました。この集いは12年前から開催しているものです。

会場の広島平和公園に隣接する「おりづるタワー」に、被爆者や生協、市民団体の代表者が集まり、オンラインで4名の首長はじめとした自治体関係者、広島県外の生協組合員、役職員、市民6団体の会員など約130人が参加しました。

はじめに、来賓の湯崎英彦広島県知事より(ビデオメッセージ)、ロシアのウクライナ侵攻の中で核兵器使用が示唆されるなど、世界中の人々にとって“核兵器の脅威”がより高まったということ、核兵器の廃絶を2030年以降のポストSDGsの目標に掲げられるよう市民と連携したいとのメッセージをいただきました。続いて、松井一實広島市長の特別講演では、「核兵器のない平和な世界へ向けて～平和文化の振興～」と題し、広島市の平和に関する歩み、核兵器を巡る国際情勢、広島市の平



湯崎英彦広島県知事



松井一實広島市長



# Topix

カクワカ広島  
田中美穂さん

和施策について報告をいただきました。慰霊碑に刻まれている「安らかに眠って下さい 過ちは繰返させぬから」という碑文に込めた思いとともに、核抑止力や軍拡の考え方が出ている昨今、それは不安の根絶には繋がらないこと、過ちを繰り返さないためには核兵器禁止条約のもと、若い世代が主役となって連帯を広げていくことが大切だ。」と訴えられました。

続いて、若者の活動報告として、カクワカ広島田中美穂共同代表から、カクワカ広島(核政策を知りたい広島若者有権者の会)の活動報告の中で「ひとりひとりの声は大きい”動けば動くほど核廃絶に近づいていく”という思いを大切にしていこうという若者らしい報告がありました。他に箕牧智之広島県被団協理事長、大内佳子広島県生協連理事の活動報告がありました。

最後に、「ロシアによるウクライナ侵略に対する抗議」「日本政府や核兵器保有国に核兵器禁止条約への批准を求めること」や、「NPT再検討会議などに向けて核兵器廃絶への機運を高めること」を盛り込んだアピール文を広島県地域女性団体連絡協議会 弓場美代会長が読み上げました。オンライン参加者も含め全員で「戦争も核兵器もない平和な世界」の実現に向けて、市民レベルで行う平和活動を強化して、市民の世論形成を高めていくことを確認しました。

(報告:広島県生協連 渡辺とおる)



せら夢公園内を走るランナーの皆さん



チームみんなで笑顔のゴール



閉会式も大盛り上がり

## 「けんこうチャレンジ2022」が はじまるよ!

広島県生協連は、6月28日(水)、生協けんこうプラザにて、「けんこうチャレンジ2022 はじまるよ!交流会」を開催しました(ZOOMを利用したハイブリッド開催)。実行委員会を構成する、生活協同組合ひろしま、広島中央保健生活協同組合、福山医療生活協同組合、広島医療生活協同組合、広島県農業協同組合中央会から45名が参加しました。

記念講演では、けんこうチャレンジ2022実行委員でもある広島県健康福祉局健康づくり推進課健康づくり推進グループ島谷道子主査(管理栄養士)から、「健康寿命延伸と食生活について」と題して講演がありました。

広島県の健康寿命は男性が72.71歳(全国第19位)で女性が74.59歳(全国第43位)と、女性の健康寿命が全国でも下位であること(※令和元年のデータ)。上位と比較して見えるのは、通いの場への参加率であったり、特定健診の受診率、塩分摂取率等の差があることがわかっており、広島県としては「健康ひろしま21(第二次)」改訂版の重点的取り組みとして次の5点を定めていると説明がありました。

- ① 介護予防の推進(運動・食・集い)
- ② 栄養・食生活(減塩、主食・主菜・副菜の栄養バランス)  
→具体的な目安 1日の塩分摂取量目標8g(広島県の現状は9.7g)、1日の野菜摂取量目標350g(広島県の現状は252g)
- ③ 身体活動・運動(適正体重)
- ④ たばこ対策
- ⑤ 歯と口腔の健康に係る対策

また食育の取組みでは、けんこうチャレンジを参考にした「ベジフルチャレンジ」では、野菜摂取量を増やす取組み(県産野菜の消費と運動)を行っているとの説明がありました。

参加者からは、「減塩は意識していたが、野菜摂取量が足ら

### けんこうチャレンジ2022

- けんこうチャレンジの目的  
広島県民が家庭で楽しみながら気軽に健康づくりの習慣を身につけ、生活習慣を見直す機会として、健康寿命を延ばす取り組みにしています。
- 「けんこうチャレンジ2022」とは17項目のチャレンジコースの中から自分に合ったコースを選択し、記録をつけていきます。この企画を通じて、生活習慣を見直し、健康づくりの習慣を身につけましょう。小学生以下を対象とした「2022きつづけけんこうチャレンジ」も同時開催しています。
- とりくみ期間:7月~10月のうち30日間または60日間
- 「2022きつづけけんこうチャレンジ」は30日間
- 報告カード締切:11月30日

※誰でも参加できます!報告カードご提出の方から、抽選で記念品をプレゼント!

ないことを実感した。とても良い勉強になった」との感想がありました。

その後、各団体実践報告では、健康づくり等に関する取り組みが報告されました。医療生協からは手作り動画で「元氣じゃけん定食」や「ピロピロサポーター養成講座」について報告され、笑いあり・感心ありの報告となりました。

(報告:広島県生協連 本浦孝典)



開会挨拶 福島守実行委員長



記念講演:広島県健康福祉局 島谷主査



会場ではオーラルフレイル予防のための、ピロピロの実物紹介がありました

## CO・OP×世羅町

### 「コープファミリーリレーマラソンin世羅」を開催

(生協ひろしま)

2021年、生協ひろしまは県内23全市町との包括的連携協定を締結しました。現在、子育て支援をはじめ、地域の見守りやDXを生かした新たなサービスの実現に向け、各自治体と意見交換を重ねています。そんな中で昨年10月に連携協定を締結した世羅町との懇談の中で、「世羅町は駅伝の町。走れるコースもあるので一緒にランニングイベントができればいいですね」という話で盛り上がり、世羅町との協定項目である「地域の活性化に関すること」の具体的な取り組みとして、5月15日(日)にせら夢公園にて「コープファミリーリレーマラソンin世羅」を世羅町と共催す

ることになりました。昨年10月の協定締結後、年明けの1月にはイベント開催が決定。このスピード感には世羅町の奥田町長も驚かれていました。イベントに県内外からたくさんの人に世羅町に来ていただきたいの思いから、地元の観光協会や生産者の皆さんに協力いただき、世羅町の特産品やご当地グルメなど14のブースが出店した「せら魅力まつり」も同時に開催。マラソンに参加されない方も楽しんでいただける企画も行いました。大会には120チーム、約860人の選手が参加。家族や職場の仲間と笑顔で襷をつなぎながらレースを楽しみました。コロナ禍で希薄になったつながりを深め、地域の活性化につなげる、生協ひろしま初の連携スポーツイベントは大盛會に終わりました。

(報告:生協ひろしま 大山敏明)



大会の様子をこちらから  
ご覧いただけます

## 2022年度通常総会 開催報告

2022年6月22日(水)、ワークピア広島にて2022年度通常総会を開催しました。全議案とも満場一致で承認され、滞りなく終了しました。

### 【議案】

第1号議案:2021年度活動報告ならびに決算報告承認と剰余金処分案承認の件

第2号議案:2022年度活動方針ならびに収支予算案決定の件

第3号議案:役員報酬決定の件



挨拶をする岡村会長

| 県連役職    | 名前     | 所属生協・役員等                  |
|---------|--------|---------------------------|
| 代表理事会長  | 岡村 信秀  | 員外                        |
| 代表理事副会長 | 横山 弘成  | 生活協同組合ひろしま 理事長            |
| 副会長理事   | 難波 隆宏  | 広島県学校生活協同組合 理事長           |
| 常務理事    | 杉田 和正  | 広島県労働者共済生活協同組合 専務理事       |
| 常務理事    | 神野 孝光  | 日立造船因島生活協同組合 理事長          |
| 常務理事    | 大野 正喜  | 広島中央保健生活協同組合 専務理事         |
| 理事      | 金築 英司  | グリーンコープ生活協同組合ひろしま 専務理事    |
| 理事      | 乃美 康志  | 福山医療生活協同組合 専務理事           |
| 理事      | 長谷川 英男 | 広島修道大学生生活協同組合 専務理事        |
| 理事      | 賀楽 幸利  | 竹原生活協同組合 理事長              |
| 理事      | 片岡 路子  | 広島中央保健生活協同組合 常務理事         |
| 理事      | 信野 哲三  | 広島医療生活協同組合 専務理事           |
| 理事      | 岩永 昌子  | 生活協同組合ひろしま 理事             |
| 理事      | 宮川 哲二  | 三共生活協同組合 理事長              |
| 理事      | 塩崎 昌哉  | 広島大学消費生活協同組合 専務理事         |
| 理事      | 宮島 直哉  | 広島県高等学校生活協同組合 専務理事        |
| 理事      | 大内 佳子  | 生活協同組合ひろしま 理事             |
| 監事      | 塩道 琢也  | 生活協同組合連合会コープ中国四国事業連合 専務理事 |
| 監事      | 花田 俊哉  | 広島医療生活協同組合 常務理事           |

## 広島県生協連 第1回組合員・役職員研修会を開催!



講師:協同福祉会 村城理事長



会場からの質問風景

人全国コープ福祉事業連帯機構」のことに触れつつ、事業連帯強化の重要性について学びました。

参加者から「今まで危機感が足りなかったことに気付かされた」という感想が出され、全国コープ福祉事業連帯機構における「協力しあう関係づくり」について質問が出るなど、参加者全員を引き付ける研修会となりました。

広島県生協連では現在、協同福祉会から県内生協の医療・介護事業におけるコンサルタントを受けており、今後とも、協同組合の基本理念のもと、組合員の暮らしの実態を掴み、行政や協同組合との連携、連帯を強め、安心して暮らし続けられる地域社会づくりに貢献する活動を推進していくことを確認しました。

(報告:広島県生協連 渡辺とおる)

### <2022年度第1回組合員・役職員研修会>

総会終了後、2022年度第1回組合員・役職員研修会を実参加52名、オンライン参加約50名(計100名以上)で同会場にて開催。講師に社会福祉法人協同福祉会 村城正理事長を招聘し、「生協組合員を人生の最期までささえる～生協がめざす地域包括ケアと協同の取り組み～」と題して講演がありました。

講演では、社会福祉法人協同福祉会の事業概要報告の後、変化する社会の状況とそれに対する方向性を矛盾点も含め判りやすくお話しいただき、具体的な数字のもと、これからの「医療と介護」の動向と展望、生協における福祉事業の重要性について説明されました。2022年6月に創設される「一般社団法



会場の様子

# 熱中症予防 × 新型コロナ感染防止 で夏を乗り切ろう!

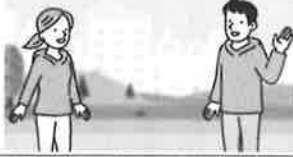



気温も湿度も高くなる夏場。熱中症予防の観点からも、**屋外で「人との距離が確保できる場合」や「会話をほとんど行わない場面」ではマスクを外す**ことを推奨します。とはいえ、感染防止対策においてマスクはととても大切。状況に応じた着用をお願いします。

感染防止対策は、いくつもの対策を重ねて行うことでより高い効果を発揮します。**状況に応じた「マスクの着用」に加え、「手洗い」、「換気」、「人との距離をとる」といった基本的な対策を継続**しましょう。

**ワクチンの3回目接種は重症化予防だけでなく感染予防の効果も期待**できます。積極的な接種をご検討ください。

新型コロナに関する情報は

広島 コロナ で検索

| 屋外                  | 距離を確保できる  | 距離を確保できない   |
|---------------------|---|---|
| 会話を<br>する           | マスク必要なし<br>                           | マスク着用推奨<br>                              |
| 会話を<br>ほとんど<br>行わない | マスク必要なし<br><br>公園での散歩やランニング、サイクリングなど | マスク必要なし<br><br>徒歩や自転車での通勤など、屋外で人とすれ違う場面 |

参考資料：厚生労働省リーフレット等

## 「消費者トラブルの手口を知りましょう」②1 適格消費者団体NPO法人消費者ネット広島

インターネットを悪用した詐欺などの被害が後を絶ちません。消費者トラブルは身近なところに存在しています。情報を知り、被害にあうことがないように、また被害にあったときの対処法について、日頃から備えておきましょう。

### お金を稼ぐはずが、高額請求!? 副業サイトのトラブルにご注意

#### 相談内容

簡単に稼げるというSNSの広告を見て、無料メッセージアプリから登録し、最初にクレジットカードで99円を決済した。その後、事業者から電話が掛かってきて、仕組みを教えると言われ、さらに33万円をクレジットカードで決済してしまった。(60歳代 男性)  
(広島県生活センター発行 暮らしのフレッシュ便 令和4年6月号より)

#### アドバイス

相談者には、最初に安い情報商材を販売後、さらに儲かる方法を教えるなどといった名目で、高額なサポート契約を勧誘するケースが多いことを説明しました。このケースは電話勧誘販売のクーリング・オフが主張できるので、状況を確認し、書面でクーリング・オフを通知するとともに、カード会社にも支払いの停止を申し出るよう助言しました。

#### トラブルを防ぐためのポイント

- 楽してもうかる話は、ありません。  
情報商材は、契約前に中身を確認することができません。実際、購入したら価値のない情報だったという場合もあります。「簡単にもうかる」とうたう甘い言葉をうのみにせず、あやしいと思ったら契約をする前に、最寄りの消費生活センターまたは消費者ホットライン188に相談しましょう。
- クレジットカード決済は借金と認識しましょう  
クレジットカード決済は料金後払い制度で、いわゆる借金と同じです。事業者から勧誘されて安易に契約していると、知らない間に借金が増えていくことになります。クレジットカードで決算するときは、慎重に行いましょう。

**お困りの際は最寄りの消費生活センター(☎188)にご相談ください。**

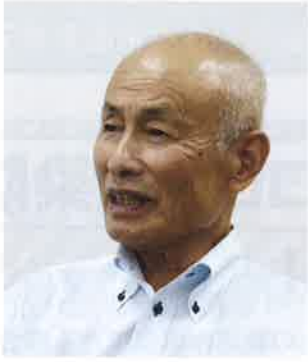


# ヒバクシャの高齢化など、課題山積。連携の力で 次の世代に思いをつなぐ。

## 坪井さんとの出会い

日本原水爆被害者団体協議会代表委員  
広島県原爆被害者団体協議会理事長

みまき としゆき  
箕牧 智之



1942年生まれ。東京市板橋区出身。  
1945年の東京大空襲をきっかけに、父の出身地・広島へ疎開。3歳の時、広島駅で働く父を探すため母と共に入市し被爆。2005年から平和活動に参加し、2010年にアメリカで開催されたNPT（核拡散防止条約）再検討会議で被爆者代表として初めて証言する。2021年に亡くなった坪井 直氏の志を受け、2022年6月日本原水爆被害者団体協議会の代表委員に就任。核兵器廃絶を目指し、山積する課題に挑む。

## さらなる連携を

私の活動は坪井さんとの出会いに大きく関わっていると  
言っても過言ではありません。2005年から日本被団協  
の活動に携わりましたが、一番の思い出は、2010年の  
NPT（核拡散防止条約）再検討会議への参加。「一緒にこ  
うや」と坪井さんに声をかけていただいたことがきっかけで  
した。初めての海外で、また世界中の人が集まる会議への  
参加に戸惑いましたが、被爆の惨状を強く語る坪井さんの  
姿に大いに励まされたことを今でも覚えています。その後、  
さまざまな形で平和活動に取り組んでいくことになりました  
が、常に坪井さんの存在に支えられていました。

2021年10月に坪井さんが亡くなり2022年6月  
から私が日本被団協の代表委員として大きな重責を担う  
ことになったわけですが、「坪井さんならこんなときはど  
うされるか」と考えながら、これまで坪井さんが取組んで  
きた核兵器廃絶に向けた運動を継承していきたいと思っ  
ています。

ロシアのウクライナ侵攻は大きな衝撃でした。核兵器  
使用をちらつかせるプーチン大統領の発言に、私たちの  
『核兵器をなくせ』という叫びは全く届いていないのか…  
と空しい思いに促されました。まだまだ、もともとして強  
く核兵器廃絶、平和への思いを発信しなければ。そう強く  
思うのですが、大きな壁となっているのがヒバクシャの高  
齢化です。核兵器廃絶のための署名運動、碑めぐりなど、  
もともと活動したいのですが、80代、90代のヒバクシャには  
厳しいのが現状です。  
こうした課題を解決していくためには、連携が必要だ  
と考えています。

生協の理念は『平和とよりよい生活のために』。ピースア  
クションなど、平和活動にも力を注がれています。近年は核  
兵器廃絶署名活動も広島県生協連と共に進めています。  
私たちの前にはさまざまな壁がありますが、連携とい  
う力があれば乗り越えていける。そして次の世代へ平和へ  
の思いをつなげたい。これからも思いを二つに手を携えて進  
んでいきたいと思えます。

## 編集後記

私はバンクシーが描いた「花束を投げる男」の絵が好きだ。ウクライナ戦争の影響で日本の中でも「軍備増強」「核兵器共有」などの声が出ている。戦争に巻き込まれることを望んでいる人は誰もいない。自分や家族を守るため「軍備増強」が必要？日本は「富国強兵」をスローガンとして、幕末・明治初期における急速な資本主義化と軍備の充実をおこなった。その延長線上に大陸への侵略及び太平洋戦争突入があった。日本国民はその過ちを繰り返さないため日本国憲法を制定した。ロシアはウクライナをネオナチと呼び、自分の国と民族を守るための軍事作戦だと主張している。戦争の起因として、必ず「国を守る」があり、「軍備増強」がセットになっている。バンクシーの描いた男の投げるものが火炎瓶や爆弾ではなく花束であるのは、まさに日本国憲法の基本的な考え方であり、みんなで再確認しなければならないことだと痛感しています。(渡辺)